

通常学級支援籍

(特別支援学校から小中学校の通常の学級へ)



埼玉県のマスコット「コバトン」

通常学級支援籍 1 (視覚障害)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Aさんの自己紹介



- ・視覚障害特別支援学校の小学部2年に在籍しています。
- ・全盲です。
- ・学校では点字を使って学習しています。
- ・特別支援学校の中では一人で移動できますが、学校の外では、サポートしてもらいます。
- ・白杖の使い方を練習しています。

【Aさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成22年度～(1年目)

<支援籍校> ; 小学校(幼稚園の頃に一緒に学習した児童がクラスにいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の子どもたちとの交流を通して、お互いに刺激し合い成長すること
- (2) 地域の同年代の子どもたちに、Aさんのことを知ってもらうこと

【Aさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

1月	保護者からの希望提出
3月	校内での調整会議、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 初年度のため、学期に1回(年3回)

内容 ; 通常の授業に入る

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担当者
- (ボランティア) なし
- (その他) 机イスは、小学校で準備



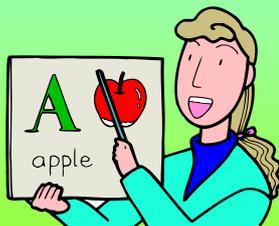
英語の授業に参加

【Aさんの支援籍学習（平成22年11月16日（火）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
9:20	登校	・保護者と一緒に登校しました。
9:35	特別活動 (特別教室で英語活動)	・Aさんは、あまり緊張している様子はなく、積極的に学習に参加しました。 ・英語の歌を振付つきで歌ったり、踊ったりしました。歌に合わせて隣の児童と手を叩きあうなど、クラスの友達と一緒に学習に取り組みました。 ・果物の名前を英語で覚えたり、箱の中に隠されている果物を当てたりするゲームを行いました。ゲームは、クラス中が盛り上がり、Aさんもとても楽しみました。
10:25	休み時間	・休み時間は、クラスの友達がたくさん寄ってきて、会話が弾んで、自然な雰囲気での交流になりました。 ・虫の好きなAさんのために、取ってきたカマキリを触らせてくれる児童もいました。
	下校	・保護者と一緒に下校し、特別支援学校に登校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・Aさんにとっては、支援籍学習を行ったことで、地域の子もたちとの交流が増え、Aさん宅の近所の子もたちと更に親しくなれました。
- ・普段は小人数のクラスで学習をしているAさんにとっては、同年代の児童の大きな集団の中で、クラスの友達と一緒に歌ったり、ゲームをしたりすることで、大いに刺激になりました。
- ・小学校の通常の授業（英語活動）に参加したことで、特別支援学校の授業では味わえない雰囲気を感じ取ることができました。



箱の中の果物を当てるゲームに参加

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・視覚障害の児童が小学校の通常の授業に参加するためには、視覚障害をサポートする情報保障が重要です。点字や分かりやすい教材の工夫などが大切になります。当日の授業でどんな教材を使うのかなど、事前に連絡を取り合っておくと良いです。

通常学級支援籍 2 (視覚障害)

【特別支援学校から中学校(通常の学級)へ】

Bさんの自己紹介



- ・視覚障害特別支援学校の中学部3年に在籍しています。
- ・弱視です。
- ・学校では、拡大教科書を使って学習しています。
単眼鏡等の補助具も使うときもあります。
- ・日常生活では、特別なサポートは必要ありません。
- ・自分の伝えたいことは、言葉で説明します。

【Bさんの支援籍】

<開始年度> ; [中学校]平成20年度～(3年目)

<支援籍校> ; 中学校(小学校の頃に一緒に学習した生徒がクラスにいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 小学校の同級生と一緒に学習することで、地域の同年代の生徒との交流を深める
- (2) 通常の中学校の様子を知る

【Bさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

1月	保護者からの希望提出
3月	校内での調整会議、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年1回

内容 ; 通常の授業に入る

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ
----	--------------------------------

[実施後]

年度末	支援籍学習の実施時に、関係者、本人、保護者で簡単に反省会。
-----	-------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担当者
- (ボランティア) なし
- (その他) 机イスは、中学校で準備



体育(バレーボール)の授業に参加

【Bさんの支援籍学習（平成22年2月12日（金）の事例）】 ※平成21年度の事例

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
12:00	登校	・保護者と一緒に登校しました。
	給食	・給食は班ごとに食べました。早々にクラスの友達と打ち解けていました。 ・休み時間は、知り合いの女子を中心に本人を囲む輪ができて、楽しそうに談笑している姿が見られました。
13:35	第5校時 体育	・体育はバレーボールでした。視覚障害のため、空中を飛んでくるボールを、レシーブしたりすることは簡単ではありませんが、他の生徒と一緒にグループ練習に入って活動しました。試合形式のゲームにも参加しました。
14:35	第6校時 道徳	・道徳は、Bさんによる作文の朗読と点字打ちの体験を行いました。Bさんの点字技術が他の生徒を圧倒し、存在感を示していました。
	清掃・ホームルーム・下校	・清掃、学級活動に参加したあと、保護者と下校しました。



給食の片付け方を聞くBさん

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習を通して、視覚障害の学校に対する理解が深まりました。
- ・Bさんにとっては、作文の朗読や点字体験などでの活動が、クラスの中学生から高く評価されたことで、自信を持つことができました。

【Bさんの作文】 「盲学校にきて」

私は、中学1年生から盲学校（埼保己一学園）に入り、今、中学2年生です。

初めの頃は、みんなと仲良くできるかなと不安でした。でも先輩の人たちが、優しく声をかけてくれました。嬉しかったです。

入学した頃は、緊張して、あまり話せませんでした。だんだんに学校にも慣れ、友達とも話せるようになりました。1年生の2学期を迎えて、すっかり学校に慣れました。とても楽しかった1年生でした。

2年生になって、この学校のことも分かってきて、寄宿舎にも入り、楽しく学校生活を送れています。盲学校の良いところは、自分の見やすい文字にしてくれたり、拡大の本があり、全盲の人には、点字の本があったり、先生が一人に一人ついていたり、授業が分かりやすいことなどです。この学校に入学して本当に良かったなと思いました。4月から3年生になるので、後輩の良い見本になるよう頑張りたいです。（※平成21年度に書いたものです）

通常学級支援籍 3 (聴覚障害)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Cさんの自己紹介



- ・聴覚障害特別支援学校の中学部2年に在籍しています。
- ・難聴です。
- ・日常生活では、特別なサポートは必要ありません。
- ・自分の伝えたいことは、言葉で説明します。ちょっと聞き取りづらいかもしれません。

【Cさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成18年度～平成20年度(3年間)

<支援籍校> ; 小学校(幼稚園の頃に一緒に学習した児童がクラスにいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 支援籍学習を通して、地域の中に友達をつくる
- (2) 地域の人たちに聴覚障害のことを理解してもらう
- (3) Cさんが自分自身の障害のことを理解して、受け止められるようになる

【Cさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

3～4月	保護者からの希望提出
5月	担任との面談等、候補者決定
5月	学校関係者、市教委関係者で相談
6月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 学期に1回(1回につき、2～3日連続)	
内容 ; 1日の授業にそのまま入る	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担任または担当者(ボランティア) 情報保障(ノートイク等)のボランティアが入る場合がある



体育(水泳)の授業に参加

【Cさんの支援籍学習（平成20年7月2日（水）の事例）】 ※平成20年度の事例

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
	登校	・通学班で登校。
朝	朝の活動	・朝マラソンと朝読書に参加しました。クラスの男子児童と一緒に校庭でマラソンをしました。
1・2	総合的な学習の時間	・「課題を解決しよう」という授業を受けました。
3	道徳	・「ボランティアしあう関係」という授業で、Cさんが、クラスの児童に向けて話すことで、小学生のボランティアに対する理解が進みました。
4	音楽	・「色々な響きを味わおう」という授業を受けました。
昼	給食・昼休み	・昼休みは、レク係が、クラスの遊びをCくんの好きなドッジボールにして、校庭で全員で楽しく遊びました。
5 6	体育	・水泳を行いました。泳ぎはあまり得意ではないということでしたが、積極的に取り組んでいました。
	下校	・クラスの児童と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・小学校の通常の学級の児童と一緒に過ごすなかで、自分の障害についての理解が進み、それを受け入れることができるようになりました。
- ・地域に友達ができました。
- ・昼休みにクラスの友達と一緒にやったドッジボールが、とても上手だと言われたことで、自信になりました。

【小学校の先生から見た子どもたちの様子】

- ・初めは、どう接していいか様子をうかがう姿が見られました。
- ・クラスの子どもたちの姿を見ていると、「障害」に対する見方が変わっていったように思います。初めは、気持ちのどこかに「かわいそう」と思う所があったようですが、それが単に不便だけと思うようになってきて、肩の力が抜けてきたようです。



下校時のクラスにて

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・スムーズな交流のためには、小学校の児童に、事前に障害についての話をしておくことが有効です。この事例では、最初の紹介の時に、「Cさんと話す時は、正面から口をあけて、ゆっくりはっきり大きな声で話してください」と、関わり方について小学校の担任の先生が話をしました。

通常学級支援籍 4 (聴覚障害)

【特別支援学校から中学校(通常の学級)へ】

Dさんの自己紹介



- ・聴覚障害特別支援学校の中学部1年に在籍しています。
- ・難聴です。
- ・日常生活では、特別なサポートは必要ありません。
- ・野球や空手などのスポーツサークルに所属して活動しているので、地域に友達がたくさんいます。

【Dさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成19年度～平成21年度(3年間)

[中学校]平成22年度～(1年目)

<支援籍校> ; 中学校(小学校から支援籍学習をしているので、知り合いの生徒がいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の生徒と交流することで、お互いを知る
- (2) 中学校で同年代の生徒と一緒に学習することで、中学校の雰囲気や状況を知る

【Dさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

1月～	保護者からの希望提出
4月	担任との面談、校内調整会議
5月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 学期に1～2回	
内容 ; 通常の授業に入る	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担当者(ボランティア)なし
- (その他) 座席は黒板の近くに設置



学校行事(餅つき)に参加

【Dさんの支援籍学習（平成22年12月6日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
朝	登校	・保護者と一緒に登校しました。
	ホームルーム	・教室で、Dさんの紹介がありました。
1 2 3 4	総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭で学年行事の「餅つき」に参加しました。 （男子は餅つき、女子は調理） ・グループごとに、準備、餅つき、片付けの作業を行い、Dさんも一つのグループに所属して、中学校の生徒と一緒に活動に参加しました。 ・教室に戻って、班ごとに試食し、試食後は感想文を記入しました。 ・Dさんには、特別支援学校の担当者が付き添っており、必要に応じて、手話などから情報を得ました。
	下校	・自宅に戻った後、特別支援学校に登校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習を小学4年生から行っています。小学校の時は、クラスの友達と一緒に遊んだり、学習するなど、多くの児童と交流を深めました。また得意とする学習の面で、力を発揮できたことは自信となり、その結果、Dさん自身が中学校での支援籍学習の実施に対して積極的になりました。
- ・小中学校の授業に参加する中で、情報保障（要約筆記や手話等）が必要な時に、きちんと自分から要望を伝えることができました。また、必要な情報保障の種類を自分で選択できるようになりました。
- ・支援籍学習を通じて、地域に友達がたくさんできました。
- ・中学校での支援籍学習に参加したことで、中学校の生徒の学校生活を知ることができました。



教室での班別の学習

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・聴覚障害のある児童生徒が、小中学校で授業に参加するためには、情報保障（要約筆記や手話等）をしっかりとすることが重要ですが、児童生徒によっては、人目が気になったり、特別扱いは嫌だという気持ちを持つ人もいますので、本人とよく相談してサポートの仕方を決めることが大切です。

通常学級支援籍 5 (病弱)

【特別支援学校から小学校（通常の学級）へ】

Eさんの自己紹介



- ・病弱特別支援学校の小学部4年に在籍しています。
- ・心疾患です。
- ・日常生活では、特別なサポートは必要ありませんが、常時携帯用の点滴を持ち歩いているので注意してください。
- ・激しい運動はできませんが、制限等は特にありません。

【Eさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成22年度～(1年目)

<支援籍校> ; 小学校(病気で入院するまで在籍していた小学校での支援籍学習)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 居住地の小学校での生活を通じて同年代の児童との関わりを深め、生活経験や社会経験を広げる

【Eさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 主治医に確認 校内調整会議、候補者決定 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
----	--

[実施]

回数 ; 週1回程度(11月から)

内容 ; 通常の授業に入る

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

(送迎) 保護者による送迎

(付添) 特別支援学校担任または担当者(ボランティア)なし

(その他) 医療的な配慮については、事前に支援籍校と打ち合わせ



給食の準備(配膳)

【Eさんの支援籍学習（平成23年2月10日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
朝	登校	・保護者と一緒に登校しました。
2	国語	・「言葉遊びの世界」という授業で、クラスの中で自分が作った詩を発表しました。
3	算数	・「小数のかけ算」の学習をしました。
4	音楽	・「音をきき合って」という授業で、グループで合奏をしました。タンバリンを担当してリズム打ちをしました。
昼	[給食]	・クラスの友達と一緒に食べました。給食当番で配膳なども行いました。
	[昼休み]	・クラスの友達と一緒に遊びました。
	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習を行ったことで、Eさん自身が自信を持ち、活動的になりました。周りの友達も声をかけてくれるようになったり、Eさん自身も友達と約束して遊びに出掛けたりするようになりました。支援籍学習を行ったことで、友達ができたことが大きな成果です。
- ・特別支援学校の中では、大きな集団の中で学習する機会がないので、小学校での体験はEさん自身にとって、大きな刺激になりました。また、給食当番で配膳をしたり、教室の掃除をすることなどは、特別支援学校では、普段取り組まないことなので、経験できたことが良かったです。
- ・これまであまり他人に、自分の病気のことを話すことはありませんでしたが、支援籍学習に行ったことで、自信がつき、友達に説明できるようになりました。



図工、絵手紙づくり

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・本人の病気に関することは、個人の情報になるので、何をどのように、小学校の先生やクラスの児童に伝えるかということが大変重要です。緊急時の対応と合わせて、事前によく話し合っておくことが大切です。
- ・病気については、主治医と常に連携を取っておく必要があります。

通常学級支援籍 6 (肢体不自由)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Fさんの自己紹介



- ・ 肢体不自由特別支援学校の小学部5年に在籍しています。
- ・ 通常は、車イスを使っています。移動するときは、介助者にサポートしてもらいます。
- ・ 日常生活では、介助者にサポートしてもらいます。
- ・ 自分の気持ちは、表情や発声、手を差し出すなどで表現します。

【Fさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成18年度～(5年目)

<支援籍校> ; 小学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の子どもたちと一緒に過ごすことで、交流を深め、社会経験を広げる
- (2) 地域の人たちに、Fさんのことを知ってもらう

【Fさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

3月	保護者からの希望提出
3～4月	校内調整会議、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年3回(午前2時間程度)

内容 ; 学級活動、音楽、英語活動

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

(送迎) 保護者による送迎

(付添) 特別支援学校担任

(ボランティア) なし

(その他) 体力面から学習は2時間程度



英語活動の授業に参加

【Fさんの支援籍学習（平成22年6月29日（火）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
10:15	登校 業間休み	・保護者と一緒に登校しました。 ・数名の児童が迎えに出て、車イスを押したり、段差を協力しながら乗り越えたりして、体育館へ移動しました。
10:45	学級活動	・林間学校で踊るフォークダンスの練習をしました。小学校の先生が太鼓でリズムを取る音に合わせて、クラスの友達が準備体操をする様子を楽しそうに見ていました。 ・「マイムマイム」などのダンスで、車イスを動かしてもらい、一体感を持って授業に参加しました。
11:30	休み時間	・たくさんの友達に囲まれて、体育館から移動しました。
12:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【Fさんの支援籍学習（平成22年10月8日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
10:15	登校 [業間休み]	・保護者と一緒に登校しました。 ・陸上大会の練習の様子を見学しました
10:45	[英語活動]	・英語での挨拶や単語の発音などの授業に参加しました。 ・買い物ごっこのワークショップでは、児童が各自洋服などの絵カードを持って活動しました。Fさんもお客さんになったり、店員さんになったりして参加しました。
11:30	[休み時間]	・たくさんの友達に囲まれ、下校直前までおしゃべり。
12:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・1年生から積み重ねで、クラスの友達とは自然な感じの交流ができています。
- ・小学校の児童が、Fさんをどのように受け入れたらいいか、自分たちで考えるなど、小学生自身が成長しました。
- ・小学校の先生や児童に、特別支援学校や本人のことを、より分かってもらうために、10分くらいの紹介用のDVDを作成しました。そのため、スムーズな支援籍学習ができ、特別支援学校や障害についての理解も深まりました。



音楽の授業に参加

通常学級支援籍 7 (肢体不自由)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Gさんの自己紹介



- ・ 肢体不自由特別支援学校の小学部5年に在籍しています。
- ・ 通常は、車イスを使っています。移動するときは、介助者にサポートしてもらいます。
- ・ 日常生活では、介助者にサポートしてもらいます。
- ・ 自分の気持ちは、表情や声で表現します。

【Gさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成18年度～(5年目)

<支援籍校> ; 小学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の子どもたちとの交流を図る
- (2) 集団活動を通して、生活経験を増やす

【Gさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

4月	保護者からの希望提出
5月	面談、校内調整会議、候補者決定
5月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年3回

内容 ; 学級活動、教科学習、学校行事

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担任
- (ボランティア) なし
- (その他) 移動にはエレベーターを使用



書写の授業に参加

【Gさんの支援籍学習（平成21年7月14日（水）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
11:30	登校	・保護者と一緒に登校しました。
11:50	書写	<ul style="list-style-type: none"> ・教室で書写の授業に参加しました。 ・特別支援学校では事前に書写の練習を行って、Gさんが見通しを持って授業に臨めるようにしました。持ちやすい太さの筆を使ったり、画板を使ってずれないようにした下敷きなど、工夫した書道具を使用しました。 ・始めになぞり書きの練習をしました。 ・清書は、特別支援学校の先生の指示を聞きながら、手元をよく見て書きました。 ・授業の終わりには、クラスの皆に作品を披露しました。
12:35	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチルームに移動。 ・クラスの友達と一緒に食事をし、交流を深めました。
13:55	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・1年生から継続して取り組んでいるので、小学校の子どもたちが自然に関われるようになりました。
- ・Gさんにとっては、小学校で色々な学習をしたことで、経験の幅が広がりました。
- ・集団が苦手だったGさんが、小集団から大集団まで、色々な集団の中で学習ができたことで、経験の幅が広がりました。
- ・支援籍学習を通して、地域の中でGさんの存在を知ってもらえました。
- ・小学生にとっては、障害のあるGさんと一緒に過ごすことで、障害に対する理解が進み、お互いの交流が深まりました。



ランチルームでの給食

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・支援籍学習を行うに当たって、事前に連絡を取り合い、必要に応じて、補助教具を作ったり、練習して臨んだことが有効でした。
- ・学年が上がるにつれて、参加しやすいもの、しにくいものが出てくるので、良く話し合っておくことが大切です。

通常学級支援籍 8 (肢体不自由)

【特別支援学校から中学校(通常の学級)へ】

Hさんの自己紹介



- ・ 肢体不自由特別支援学校の中学部3年に在籍しています。
- ・ 通常は補装具を使っています。歩くときは少し不安定ですが、一人で階段の昇り降りもできます。
- ・ 日常生活では、時々サポートが必要なときもあります。
- ・ 自分の気持ちは、言葉で伝えます。

【Hさんの支援籍】

<開始年度> ; [中学校]平成20年度～(3年目)

<支援籍校> ; 中学校(小学校時代の同級生がいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 同年代の生徒との交流を通して、地域とのつながりを持つ
- (2) 中学校の学校生活に触れることで、通常の中学生的の様子を知る

【Hさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

3月頃	保護者からの希望提出
4月	面談、校内調整会議、候補者決定
5月頃	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年7回程度

内容 ; 教科学習、学校行事など

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担任
生徒の状況によっては、密着せずに別室で待機することもある
(ホラソフィア) なし



美術に参加、テーマは「心象風景」

【Hさんの支援籍学習（平成22年7月14日（水）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
9:30	登校	・保護者と一緒に登校しました。一日の授業そのまま入りました。
2	国語	・特別支援学級で個別の学習に取り組みました。
3	美術	・「心象風景」というテーマでの作品作りをしました。
4	英語	・通常の授業にそのまま入って学習しました。
昼	給食	・3年生のクラスで班に所属して、友達と一緒に食べました。
5	生活	・特別支援学級で調理実習を行いました。
6	総合的な学習の時間	・夏休みの高校説明会などについての授業にそのまま入って、話を聞きました。
15:40	清掃・帰りの会・下校	保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習を通して、クラスの中に友達ができました。
- ・中学校の学校生活に触れることで、これまで何となく見たり考えていたりしたこと、例えば、身だしなみや食事の仕方、トイレの男女のマークの違いなどを、Hさん自身が自分で意識して考えるようになりました。
- ・Hさん自身にとっては、特別支援学校では経験できないような学習（例えば、理科の実験など）に取り組み、学習することに対してとても刺激を受け、それが自信になりました。
- ・Hさんは中学3年生なので、今年度で支援籍が終わってしまいますが、地域に出ていくのは、高等部を卒業した後になるので、それまでの3年間ブランクにならないように、何らかの形で、地域とのつながりを考えていく必要があると思います。



英語の学習

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・支援籍学習には、特別支援学校の先生が付き添いましたが、Hさんが、クラスの中で十分にやっていけると判断し、遠くから見守るようにしました。その結果、中学校の生徒が、自然にHさんに話しかけたり、一緒に活動したりする場面が見られるようになりました。付き添いが交流の妨げにならないようにすることが大切です。

通常学級支援籍 9 (肢体不自由)

【特別支援学校から中学校(通常の学級)へ】

Iさんの自己紹介



- ・ 肢体不自由特別支援学校の中学部3年に在籍しています。
- ・ 車イスを使っています。操作は自分で行います。
- ・ クラッチと呼ばれる杖を使って歩くこともできます。
- ・ 日常生活では、サポートが必要な時もあります。
- ・ 自分の気持ちは、言葉で伝えます。

【Iさんの支援籍】

＜開始年度＞；[中学校]平成20年度～(3年目)

＜支援籍校＞；中学校(クラスに知り合いの生徒がいる)

＜支援籍学習のねらい＞

- (1) 将来の進路を考える上で、中学校で同年代の生徒と一緒に教科の学習を行うことで心情を共有し、学習に対するモチベーションを高めるとともに、学力を身に付ける
- (2) 地域の多くの人と交流することで、良い仲間づくりをする

【Hさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

2～3月	保護者からの希望提出
4月	面談、校内調整会議、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
4月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数；年3回程度

内容；教科学習、学校行事など

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

(送迎) 保護者による送迎

(付添) 特別支援学校担当者

(ホラソフィア) 中学校で、特別支援学校の先生の補助



社会「市場についての学習」

【Iさんの支援籍学習（平成22年11月19日（金）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
8:00	登校	・保護者と一緒に登校しました。
1	[技術・家庭]	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の授業全部に参加しました。Iさんは、特に介助や補助がなくても、中学校の授業にそのまま参加しました。 ・社会は、『市場』についての学習を行いました。黒板の板書もしっかりとノートに書き写して他の生徒と同じように学習に取り組んでいました。 ・英語は、ヒアリング、プリントなど、他の生徒と一緒に取り組みました。 ・休み時間は、他の生徒と楽しくおしゃべりしました。
2	[社会]	
3	[英語]	
4	[理科]	
昼	[給食]	
5	[総合B]	
16:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習で中学校に行ったことで、特定の仲の良い友達ことができました。また、中学校の生徒には、同じ地域に住んでいる人の一人として認識されるようになりました。
- ・高校受験を目指している同じ年齢の生徒と一緒に学習することで、受験に対するモチベーションが高まりました。
- ・受験に対する中学校の雰囲気を感じることができました。
- ・Iさんから、「付き添いとして来ている特別支援学校の先生がいると、かえって友達との交流が進まない」という申し出があり、特別支援学校の先生は、控室で待機するようにしました。その結果、クラスの生徒との距離が縮まり交流が深まるという成果ができました。また、特別支援学校の先生に助けを借りず、自分でできることは自分で行おうとする主体性も身につきました。



英語「単語のヒアリング」

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・車イスや杖を使用しているため、座席や移動などに配慮が必要な場合もあります。在籍校（特別支援学校）と支援籍校（中学校）が良く連携を取って計画を立てることが大切です。
- ・学習面や生活面でのサポートの仕方については、本人とよく話し合っ、どのように支援するのかを決めておくことも大切なことです。

通常学級支援籍 10 (知的障害)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Jさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校の中学部1年に在籍しています。
(小学部在籍時の事例です)
- ・日常生活では、サポートが必要な時もあります。ゆっくり行動するので、食事の時などは時間が必要です。
- ・自分の気持ちは、身振りや手振り、表情で伝えます。

【Jさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成17年度～平成21年度(5年間)

<支援籍校> ; 小学校(同じ学校に、保育園で一緒だった児童がいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同世代の児童と楽しく触れ合うことで、Jさんのことを知ってもらい、地域で生活する人として、将来的にも交流できるようにしたい

【Jさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

2～4月	保護者からの希望提出、面談
5月	校内調整会議、候補者決定
6月	学校関係者、市教委関係者で相談 (支援籍学習連絡会の開催)
7～8月	支援籍校見学及び打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年2回

内容 ; 学校行事、教科学習、学級活動など

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ
----	--------------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度についての相談
-----	----------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

(送迎) 保護者による送迎

(付添) 特別支援学校担任または担当者
(ボランティア) 支援籍学習で付き添い指導を
している特別支援学校の先生の
クラスで補助(後補充)



通学班で他の児童と一緒に登校

【Jさんの支援籍学習（平成21年9月の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
7:45	登校	・通学班で他の児童と一緒に登校しました。 ・Jさんの歩く速度がゆっくりなので、事前に通学班長や班員にゆっくり歩いてくれるよう依頼しました。
8:10	朝の活動（マラソン）	・朝の活動の前に、全校児童にJさんを紹介し、その後、特別支援学校の担任の先生と一緒に校庭を走りました。
8:20	下校	・保護者と一緒に特別支援学校に登校しました。

【Jさんの支援籍学習（平成21年11月の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
7:45	登校	・通学班で他の児童と一緒に登校しました。
8:10	朝の活動（誕生日会）	・小学校のクラスで、毎月実施している「誕生日会」に参加しました。小学校の児童がJさんの好きなものを事前に調べて、Jさんに関する三択クイズを作るなど、Jさんと一緒に活動するための工夫をしてくれました。
8:30	下校	・保護者と一緒に特別支援学校に登校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・5年間継続してきたことで、クラスにも溶け込んで、他学年の児童にも声をかけられるようになりました。
- ・支援籍学習を続けてきたことで自信がついて、小学校の中でも、Jさん自身が自分の意思で行動を起こすことが多くなりました。
- ・普段は、言葉を話すことがほとんどないJさんが、保育園の時の友達を見つけて、その児童の名前を声に出して言う場面がありました。
- ・地域の行事に誘われたり、子供会に入ってお囃子の練習をするようになりました。
- ・6年生になったときに、通学班での登校を計画に入れました。これは交流という点でとても有効でした。



朝の活動で校庭を走る

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・小学校の児童に対して、Jさんの行動や思いについて、特別支援学校の先生が説明をしました。また、本人ができることについても説明し、児童たちの支援が過度にならないように配慮しました。このような事前説明は大変有効です。

通常学級支援籍 1 1 (知的障害)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Kさんの自己紹介



- ・ 知的障害特別支援学校の小学部3年に在籍しています。
- ・ 日常生活では、サポートが必要な時もあります。
- ・ 自分の気持ちは、身振りや手振り、表情で伝えます。うまく伝わるように写真カードを使うこともあります。

【Kさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成21年度～(2年目)

<支援籍校> ; 小学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の中で生きていくための基盤づくり及び応援団づくり
- (2) 小学校やクラスに慣れる
- (3) 小学校の友達や先生に顔や名前を覚えてもらう

【Kさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

2月	保護者からの希望提出、面談
3月	校内調整会議、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年2回	
内容 ; 学校行事、教科学習など	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担当者
- (ボランティア) なし



支援籍学習、初めの挨拶

【Kさんの支援籍学習（平成22年7月13日（火）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
9:20	登校	・保護者と一緒に登校しました。
9:30	体育（水泳） 体育館で準備体操	・体育館で、Kさんと担当者が自己紹介をしました。 ・準備体操では、友達の準備体操の様子をよく見て、Kさん自身も取り組みました。
	プールで水泳	・同じ学年の児童と一緒に、プールに入り、水慣れ、パタ足、水かけ、けのび、ドルフィン泳ぎなどに取り組みました。 ・活動中にたくさんの友達が声を掛けてくれたので、Kさんの表情も明るく、笑顔が多かったです。
10:20	下校	・プールサイドで学年の友達に挨拶をしました。 ・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・特別支援学校でも人前で話したり、何かしたりすることが苦手なKさんが、小学校の学年の集会のなかで、落ち着いて挨拶することができました。Kさんにとって、とても良い経験になりました。
 - ・小学校の児童が、積極的に話しかけてくれたり、交流する中で、Kさん自身も刺激を受けて、活動にも楽しく参加することができました。
 - ・支援籍学習で、色々な授業に参加していますが、夏には、Kさんの好きな水泳の学習に参加しました。学年の友達と一緒に、水泳の学習ができたことは、とても楽しい経験になりました。
- 学年の友達と自然な交流の機会を持つことができました。



遊びラウンドで友達と活動

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・新たに支援籍学習を始める児童や生徒には、支援籍学習を始める前の夏休みに、支援籍校となる学校に見学に行きます。他の児童がいない学校や教室を訪れ、学校の大きさや教室の広さを体感してもらいます。事前に教室を見ておくことで支援籍学習の時には、落ち着いた状態で学習できます。

通常学級支援籍 12 (知的障害)

【特別支援学校から中学校(通常の学級)へ】

Lさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校の高等部1年に在籍しています。
(中学部在籍時の事例です)
- ・日常生活では、サポートが必要な時もあります。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えます。

【Lさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成18年度(1年間)

[中学校]平成19年度~平成21年度(3年間)

<支援籍校> ; 中学校(小学校の時の友達がクラスにいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の中学校の友達との交流を通して、人間関係の広がりやコミュニケーション能力の向上を図る

【Lさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

3月	保護者からの希望提出
4月	面談、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年5回

内容 ; 学級活動、学校行事、教科学習(美術や家庭など実技の伴う教科中心)、部活動

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
(付添) 特別支援学校担当者
(ボランティア) 支援籍学習で付き添い指導をしている特別支援学校の先生のクラスで補助(後補充)



写生会の参加

【Lさんの支援籍学習（平成20年度の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
6月	写生会、給食	<ul style="list-style-type: none"> ・全校に紹介されました。 ・中学校の校舎の中でクラスの何人かのグループと一緒に午前中いっぱい、校舎を写生しました。
9月	体育祭	<ul style="list-style-type: none"> ・地区と中学校の合同運動会に、保護者と一緒に参加しました。事前に調整して、中学生の参加種目のうち、パン食い競争と綱引きに参加しました。
10月	美術、音楽、給食、昼休み	<ul style="list-style-type: none"> ・10時30に登校。13時30分に下校。 ・美術は、前回作ったCDジャケットの鑑賞とコースターのデザインに取り組みました。 ・音楽は、鑑賞でした。
11月	美術、音楽、給食、昼休み	<ul style="list-style-type: none"> ・美術は、木製コースターのデザインを彫刻刀で彫る学習をしました。 ・音楽は、3人一組で、ギターを弾く体験をしました。
12月	美術、学級活動、給食 昼休み	<ul style="list-style-type: none"> ・美術は、木製コースターに色付けを行いました。 ・学級活動は、クリスマスのお楽しみ会に参加しました。

【支援籍学習を行って】

- ・小学校からつながりのある地域の友達が中学校にいたこともあり、支援籍学習でも自然な交流ができました。
- ・Lさんは、折り紙が得意で、支援籍学習の度に作品を持って行ったことで、中学校の中に作品を飾るスペースができ、Lさんを知ってもらう良い機会となりました。
- ・支援籍学習の開始に当たり、全校への紹介をしたことで、クラス以外の先生や生徒にも知らされました。
- ・支援籍学習を通して自信が付き、積極的な面が出てきました。
- ・中3で支援籍が終わってしまい、折角築いてきた地域とのつながりを継続できないことが残念です。



クラスの生徒と一緒に学習

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・中学校は教科担任制なので、支援籍学習の内容については、特別支援学校と中学校で、よく連絡を取り合っておくことが大切です。必要に応じて、教科担任の先生と打ち合わせをすると良いです。

通常学級支援籍 13 (知的障害)

【特別支援学校から中学校(通常の学級)へ】

Mさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校の高等部2年に在籍しています。
(中学部在籍時の事例です)
- ・日常生活では、特にサポートは必要ありません。
- ・自分の気持ちは、少し不明瞭ですが言葉で伝えます。

【Mさんの支援籍】

<開始年度> ; [中学校]平成19年度~平成20年度(2年間)

<支援籍校> ; 中学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の生徒と交流することで、お互いを知ること
- (2) 特別支援学校ではない集団の中で、色々なことを感じることに

【Mさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

2月	保護者からの希望提出
3月	校内調整会、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
6月以降	開始のための打ち合わせ 中学校担任が特別支援学校を見学

[実施]

回数 ; 年5回

内容 ; 特別活動、学校行事、通常の授業

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ
----	--------------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度についての相談
-----	----------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担任
(ホラソニア) 支援籍学習で付き添い指導を
している特別支援学校の先生の
クラスで補助(後補充)



1回目の学級活動の様子

【Mさんの支援籍学習（平成20年度の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
7月	事前学習（道徳）	・障害についての理解や支援籍学習を進めるための話し合い等を中学校の授業の中で、担任の先生が行いました。
7月	学級活動	・中学校の生徒による歓迎の劇が行われました。最初なので、交流を深められるように、Mさんが興味関心の持てる内容を工夫してくれました。
9月	体育祭練習、体育祭	・体育祭の練習の様子や当日の様子を見学しました。
12月	技術	・通常の授業に参加しました。 ・パソコンを使って自由に絵や模様を描いて、作品に仕上げました。
2月	美術	・通常の授業に参加しました。 ・学習内容は、本人に合わせたものを中学校側が用意し、折り紙を折ったり、ハサミでカットしたりして作品に仕上げました。黙々と取り組み、最後に発表しました。
3月	給食、学級活動	・クラスの生徒と一緒に給食を食べ、その後、お別れ会が行われました。

【支援籍学習を行って】

- ・中学校の担任の先生が事前に、特別支援学校を見学し、本人の状況を把握したうえで、取り組んだため、学習がより本人に合った内容となりました。
- ・中学校では、事前に障害についての学習などをしてから取り組んだため、中学生の理解が深まりました。
- ・1回目から5回目まで、お互いを知る機会が持てるように、段階を踏んで学習内容を設定したので、本人にとっても、中学生にとってもスムーズな支援籍学習となり、お互いの交流が進みました。
- ・3、4回目は、通常の授業に入りました。中学生もパソコン等の使い方を教えてくれるなど、自然な関わりが見られました。



体育祭見学後に届いた中学生からの手紙

【保護者から】

- ・これから障害のある人もない人もいる社会の中で生活していくためにも、このような体験はとても大切ですし、絶対に役立つと思います。

通常学級支援籍 14 (知的障害) 入学式

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Nさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校の小学部2年に在籍しています。
(小学部1年生在籍時の事例です)
- ・日常生活では、特にサポートの必要はありません。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えます。

【Nさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成21年度～(2年目)

<支援籍校> ; 小学校(小学校併設の幼稚園に通っていたため、クラスに友達がいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 幼稚園からつながりのある児童も多いので、支援籍を通して交流を深める
- (2) 小学校の児童だけでなく、地域の人にもNさんのことを知ってもらう

【Nさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

2～3月	特別支援学校の入学説明会で説明 保護者からの希望提出 学校関係者、市教委関係者で相談
4月	保護者への説明
式前日	会場視察
入学式	参加

[実施] (※全体)

回数 ; 学期1回

内容 ; 通常の授業(半日)

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ
----	--------------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度についての相談
-----	----------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担当者
(ボランティア) なし
- (その他) 座席は、保護者席の近くに設け、
本人のすぐ近くに保護者が座
れるように配慮



入学式(校長先生の式辞)

【Nさんの支援籍学習（平成21年4月8日（水）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
9:20	登校（受付）	・保護者と一緒に登校しました。受付では少し緊張していましたが、他の児童と一緒に静かに教室で待機しました。
9:40	体育館へ移動	・クラスの友達と一緒に移動しました。
10:00	入学式	・入学式の最中も落ち着いて自分の席に座っていました。 ・小学校の校長先生が式辞の中で、特別支援教育のことや支援籍のこと、Nさんのことを紹介してくれました。
10:40	クラスごとの記念写真	・入学式の記念写真では、落ち着いて他の児童と一緒に写真に写りました。
	教室に移動	・教室では、大勢の児童や保護者に囲まれても静かに、自分の席について、先生の話を楽しみました。 ・教室では、小学校の担任の先生が、クラスの児童や保護者にNさんのことを紹介してくれました。
11:00	下校	・元気な声と笑顔で、「さようなら」を言って下校しました。



全体集合写真

【支援籍学習を行って】

- ・入学式に参加したことで、他の児童の保護者や地域の人にも特別支援学校のことやNさんのことを知ってもらえました。
- ・幼稚園を卒園してすぐの入学式だったためクラスの友達とも自然な感じで交流することができました。

【入学式へのスムーズな参加のために】

- ・保護者に入学式への参加希望についての確認を取ってから、市町村教委や小学校との打ち合わせを行います。当日までの時間が短いため、事前の打ち合わせをしっかりと行うことが重要です。
- ・児童にとっても、保護者にとっても初めての入学式なので、入場の仕方、式の流れ、座席の位置、名簿への掲載など、細かい部分について、よく相談しておくことが大切です。
- ・児童によっては、見通しを持ってもらうために、前日に小学校の入学式会場を視察することも、大変有効です。

通常学級支援籍 15 (肢体不自由) 入学式

【特別支援学校から中学校 (通常の学級) へ】

〇さんの自己紹介



- ・ 肢体不自由特別支援学校の中学部 1 年に在籍しています。
- ・ 電動車イスを使っています。操作は自分で行います。
- ・ 日常生活では、場面によってはサポートが必要です。
- ・ 自分の気持ちは、言葉で伝えます。

【〇さんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成17年度、平成19年度～平成21年度 (4年間)

[中学校]平成22年度～ (1年目)

<支援籍校> ; 中学校 (同じ学校に姉妹がいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の生徒との交流を広げる
- (2) 自己理解を深め、将来の進路について考える機会とする

【〇さんの支援籍学習の計画 (主な流れ)】

[実施に向けて]

2～3月	前年度の支援籍の反省会、入学式への参加希望、市教委担当者への打診 中学校への打診及び打ち合わせ
4月	会場見学及び打ち合わせ
入学式	開会前に事前確認、参加

[実施] (※全体)

回数 ; 学期1回 (年3回)

内容 ; 通常の授業

随時	担当者・担任間で、必要に応じて、 電話、FAX等で打ち合わせ
----	-----------------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度についての相談
-----	----------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎 (福祉サービスの利用も検討)
- (付添) 特別支援学校担当者
- (ボランティア) なし
- (その他) 体育館入場のためのスロープを中学校が事前に手作りで作成



入学式 (入場)

【Oさんの支援籍学習（平成22年4月8日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
13:00	登校（受付）	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と一緒に登校しました。体育館で待機。 ・中学校の先生に挨拶をしました。
13:10	事前確認	<ul style="list-style-type: none"> ・入場のコースや座席の確認をしました。
14:00	入学式	<ul style="list-style-type: none"> ・入場は中学校支援籍クラスの最後につく形で、特別支援学校の教員が付き添って入りました。自分で電動車イスを操作しました。 ・新入生呼名では、支援籍クラスの最後に名前を呼ばれました。Oさんは、車イスのため起立することができないので、その場で返事をして挙手しました。また、式の中では他の生徒に合わせて礼をしました。 ・入学式では、上級生が声をかけてくれるなどの交流が見られました。
15:30	下校	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と一緒に下校しました。



クラスに所属して参列

【支援籍学習を行って】

- ・入学式に参加したことで、本人の中に学校への所属感が生まれました。学年の他の生徒の保護者にも特別支援学校のことやOさんのことを知ってもらえました。
- ・入学式での呼名に応えることで、自信を持つことができました。
- ・車イスの移動のために、スロープ等の補助具を中学校が作ってくれたので、スムーズな参加ができました。

【入学式へのスムーズな参加のために】

- ・車イスを使用しているため、座席や移動などに大きなスペースが必要となります。そのため、事前に会場を確認したり、入場の練習をしておくことが必要です。
- ・当日は、本人が見通しを持って入学式に臨めるように、開始の少し前に中学校に行って、雰囲気を感じておくことも大切です。
- ・事前練習を通して、本人が自分でできることと、介助してもらうことを整理しておくことも大切です。



【特別支援学校から小学校（通常の学級）へ】

Pさんの自己紹介



- ・ 知的障害特別支援学校の小学部5年に在籍しています。
- ・ 日常生活では、特にサポートは必要ありません。
- ・ 自分の気持ちは、言葉で伝えます。自分の興味のあることなどを友達に話します。

【Pさんの支援籍】

<開始年度>：[小学校]平成19年度～（4年目）

<支援籍校>：小学校（同じ学校に兄弟が通っていて、朝一緒に登校している）

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の児童と交流する
- (2) 地域の中で、障害のある子どものことを知ってもらい、理解の推進を図る
- (3) 支援籍を通して、人と関わる力や社会性を育てる

【Pさんの支援籍学習の計画（主な流れ）】

[実施に向けて]

2～3月	保護者からの希望提出
4月～	校内調整会議、候補者決定 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ

[実施]

回数；月2回（隔週）	
内容；朝の活動（業前活動、朝の会）	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
通学班での登校
- (付添) 特別支援学校担任または担当者
(ボランティア) なし



通学班に所属して友達と一緒に登校

【Pさんの支援籍学習（平成20年度の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
7:30	登校	・通学班で登校しました。
7:45	学校着	・教室で荷物整理や着替えなどを行いました。
8:10	校庭へ	・朝の活動が始まるまでの時間、クラスの友達と自由遊びをしました。
8:20	朝の運動	・15分間の朝の活動に参加しました。時期によって、マラソンや運動会の練習などに取り組んでいます。
8:35	朝の会	・教室に移動して、朝の会に参加しました。出席の呼名もされ、最後に挨拶の中で、今日の活動の感想を自分で発表しています。
8:50	下校	・保護者と一緒に特別支援学校に登校しました。

【朝の学習に参加することの長所】

- ・通学班で友達と一緒に登校するので、仲間意識や所属感を持ちやすい。
- ・朝の時間には、教室に自由な雰囲気があり、子ども同士の自発的な関わりが持ちやすい。
- ・活動の流れが基本的に同じなので、特別支援学校の児童にとって見通しが持ちやすい。
- ・朝の時間への参加は、活動時間が短く、特別支援学校の児童にとって集中しやすい。
- ・朝だけの参加なので、付き添いする特別支援学校の担当者の負担が少ない。

【通学班での登校について】

- ・打ち合わせの中で、登校班での通学について小学校に相談。
- ・小学校が住所から通学班を調べ、班長さん宅へ連絡。その後、特別支援学校の保護者から班長さん宅へ連絡。小学校の先生が、通学班の子どもたちに対してPさんを紹介。
- ・保護者の付き添いで、通学班に所属して登校。

【支援籍学習を行って】

- ・継続して行うことで、周りの子どもたちのPさんに対する特別な意識がなくなってきました。
- ・Pさんにとっては、回数を重ねてきたことで、活動の流れが分かり、自然に取り組めるようになってきています。また、突然の変更があっても、対応できるような力が付いてきました。



朝の活動に取り組む児童

間接交流（知的障害）

【小学校（手紙の交換、出前授業など）】

Rさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校小学部3年に在籍しています。
- ・日常生活では、場面によって介助者にサポートしてもらっています。
- ・自分の気持ちは、身振り、手振りで表現しますが、うまく伝わらない時もあります。
- ・直接交流を目指して、22年度は間接交流を行っています。

【Rさんの支援籍】

<開始年度>；[小学校]平成22年度～（1年目） ※間接交流

<支援籍校>；小学校

<支援籍学習のねらい>

- （1）地域の子どもたちに知ってもらうこと
- （2）次年度、直接交流を計画しているので、そのための準備を行うこと

【Rさんの支援籍学習の計画（主な流れ）】

[実施に向けて]

3月	保護者からの希望提出 校内調整会議、候補者決定 学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

内容；お手紙交換（2回）
特別支援学校担当者による出前授業
ビデオレター

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度について相談
-----	-----------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

（用紙するもの）

ビデオレター、手紙、Rさんの写真
特別支援学校でRさんが作った作品



小学校に送った手紙

【Rさんの支援籍学習（平成22年度の事例）】

月日	内 容	具体的な内容や児童の様子
9月17日	Rさんからの手紙（1回目）	・手紙を作って、Rさんと保護者が小学校に持参しました。
1月	Rさんからの手紙（2回目）	・2回目の手紙を作って、小学校に持参しました。
2月	小学校からの手紙	・Rさんが持って行った手紙の返事として、小学校から返事がきました。
3月	特別支援学校担当者による出前授業	・特別支援学校のこと、Rさんのことを紹介しました。 ・ビデオレターを作成しました。 ・Rさんの保護者に、手紙を書いてもらい、それを紹介しました。

【支援籍学習を行って】

- ・Rさんの手紙を教室内に掲示してもらったところ、保護者が「今度、小学校に行くの？」と声をかけられました。
- ・2回目の手紙を渡しに行ったときに、音楽発表会に招待されました。特に挨拶はしませんでした。Rさんが来ていることに気づいて、先生に知らせてくれた子がいました。
- ・Rさんを紹介する授業では、Rさん紹介ビデオを作成したことで、様子が伝わり、理解が進みました。また、学年全体の児童に直接話ができることで、Rさんが学校に来る期待感を持ってもらうことができました。



【保護者の手紙から（出前授業の中で）】

- ・赤ちゃんの頃の〇〇は、どこにでもいるふつうの赤ちゃんでした。
- ・家では、色々な手伝いをやってくれてとても助かっています。帰宅後は荷物をきちんと片付けて、衣類も洗濯機に入れ、頼むと洗うところまでやってくれます。今は、洗濯物を広げて干す練習をしています。
- ・支援籍の交流は、ずっと楽しみでしたが、不安も大きいです。それでも多くの同じ歳のお友達とふれあうことで、今までできなかったことができるようになるのは、とても大切なことです。

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・間接交流であっても、通常学級支援籍と同じように、学校関係者、市教委関係者も了解のうえで実施したため、特別支援学校と小学校との間で共通理解が図られ、スムーズなやりとりができました。
- ・小学校にRさんのことを紹介するコーナーが設けられたことは大変有効でした。

支援籍学習を行って

聴覚障害特別支援学校 保護者

〇〇の聞こえは、補聴器がないとほとんど聞こえません。補聴器を付けると普通の声の大きさなら音と口の動きで簡単な言葉なら読み取れます。〇〇自身も相手に伝える時の声は、大分はっきりと伝えられるようになってきました。

小学部4年生の時、自分から居住地校交流に行きたいと言い出しました。その時に特別支援学校の周りの同級生の子から楽しかったことを聞いていたからだと思いますが、親の方は、とても心配で、音が聞こえないのに、周りの動きや様子が分かるのだろうか、小学校に行く一か月も前から、ドキドキしていました。受け入れてくれるクラスの先生と必要な持ち物や、昼食などについて細かく打合せをしてもらいました。昼食は、クラスのみんなど同じ給食にしてほしかったので、そのことをお願いしました。学校に行く時の通学班はどこにするか、学校に行った時の下足箱はどこか、教室はどこか、何年何組で先生の名前は何か、〇〇も先生に質問しながら、打ち合わせを終わりました。

一日目の小学校の体験が終わり、迎えに行った帰り道に、学校はどうだったと聞くと、まず「楽しかった。」と返事が返ってきたので、ホッとしました。そのあと、「給食がおいしかった。ハンバーグみたいな物が出て、一番で食べ終わった。」とも言っていました。

それから言った言葉が、「小学校にすーっと通ったら、僕は耳が聞こえるようになるの。」でした。「それは無理だよ。治らないんだよ。」と話しました。

「お金がたくさんあったら治る。」(手術のことだと思うのですが)と言うので、「それも無理だよ。耳の奥がダメになっているから聞こえないんだよ。お金で治るなら、ろう学園のお友達も治っているよ。」と答えました。

「来たか」と思いました。

特別支援学校の幼稚部の時の先生の言葉が浮かんできました。「小学部の高学年になると、何で自分は耳が聞こえないのか親に言う時が来ます。その時に、どう答えて、子どもなりに納得して受け入れてもらうかです。」とっていたと思います。

〇〇は、私の言った言葉を受け入れたようでした。その後から自分は聞こえないのだからと納得することが多くなりました。

ろう学園の中だけでは感じ取ることが難しかったと思いますが、交流の中で自分は他の子と違うと思うことで、聞こえないことを意識できるようになったと思います。

最近では、7月2日から3日間交流に行ったのですが、5年生の時に担当して下さった先生が引き続き6年生でも担当でしたので、スムーズに受け入れてもらいました。先生の話し方は、口が大きく開き、はっきりと話して下さるので、〇〇も分かるようです。

勉強の面では、皆と同じ教科書でやっているのですが、内容の早い遅いはあっても、あまり変わらずにやれています。新しい内容の所に入って、理解するのに難しい時などは去年からろう学園のお母さんたちがボランティアで、ノートテイクに入ってくださいるので、分かりやすいと言っていました。

クラスの仲間も障害があるからどうこうというわけでもなく、自然体で受け入れてく



れ、休み時間などは、仲間が集まりドッジボールをやったりして楽しんでいます。今一番楽しいのは、皆と一緒にやるドッジボールと言っています。10月にまた、お世話になります。日数は短いですが、いろんな体験をし、成長して行ってほしいです。

支援籍学習を行って

肢体不自由特別支援学校 保護者

私の娘は、車イスに乗り、手足の動きが不自由で、発声はあるけれど発語は無く顔の表情でコミュニケーションをとっている10歳の女の子です。

A市に住んでおり、B特別支援学校へ通学しています。その事で起こる不安は、地域とのつながりが乏しくなることだと思いました。将来、地域で生活していく娘を一人でも多くの同世代の子どもたちに知ってほしい、そんな気持ちから支援籍学習を希望しました。

当初は、「学校生活が始まったばかりの一年生よりも、落ち着いた高学年への交流が良いのでは？」と相談したところ、担当の先生より、「長い目を見たとき、一緒に成長していける、同学年への交流が良いのでは。」と勧められ、その時私は、支援籍が自分の娘だけのものではないということに気付かされました。

C小学校の子どもたちは、事前に学習で娘のイメージを膨らませておいてくれた様子で、たくさんあるはずの「なぜ？」という疑問で私たちに質問攻めにするのではなく、娘に会い、感じて、考えてくれているのが良く分かり、安心し、嬉しく思いました。

日常生活の変化は、なかなかクラスのお友達の顔と名前が覚えられない私をよそに、スーパーなどで声をかけてくれたり、妹の幼稚園の行事に参加していると静かに傍にいて手を握ってくれたり。近所の子どもたちに娘を紹介することがなかなか上手にできない私の代わりにC小学校のクラスメイトが紹介してくれたりしました。

授業回数が増えるたび、子どもたち自ら、「こんな風にしたら、一緒にできるよ！」と考えてくれる姿が印象的でした。授業の前から手紙を書いて手渡してくれる友達もいます。

三年生になると、クラス統合があり、約20名から40名になり、教室での車イスの移動が難しくなりましたが、授業を工夫したり、特別教室の利用などで対応できました。

四年生では、英語の授業を受けました。コミュニケーションがメインと言うことで、多くのクラスメイトが英語での自己紹介と握手を代わる代わるしてくれることに、娘は目を丸くしたり、ニヤッと笑ってみたりしてました。経験のないスピード感や言葉を受け入れようとする“力”が、娘についてきていると感じました。また、娘は、マイクを通した声が苦手、音楽にもびくついてしまうのですが、音の響く体育館でクラスの皆が作った歌とダンスを披露してくれたときは、泣き出すどころか、ビックリしながらも良く聞いて見ることができました。特別支援学校での毎日では、教室に先生方の元気な声が響くというのが日常で、同じ歳のクラスメイトの40名からなる言葉のシャワーは、とても刺激的なことだと思いました。

一番最近の授業では、林間学校に向けたダンスの練習をしました。娘は、前の週が宿泊学習だったため、ジェンカやマイムマイムを学習したばかりで、曲がかかると、「知っている！！」という表情でずっと笑ってました。

こんな様子で毎回取り組んでいる支援籍ですが、今後日数を増やしていきたいとは思っていません。特別支援学校で、ゆっくりとした自分のペースで生活が守られて自分を表現できることの経験が積み重ねられているからこそ、C小学校の元気で、力強く、やさしい友達と多くの“初めて”が待っている支援籍でにっこりとした良い表情が出せるんだと思います。

この素晴らしい時間を創ってくれているクラスメイトと先生方に感謝しています。これからも、お互いが成長しあえる支援籍を続けていきたいと思います。



支援籍学習を行って

知的障害特別支援学校 保護者

支援籍の目的は、「息子を知ってください！」ということから始まりました。知ってもらうのが目的です。

妹が地域の小学校に通っていますが、息子は別の学校(特別支援学校)に通っていて、妹の友達に会うと、何でお兄ちゃんは違う学校に通っているの？何でお兄ちゃんはしゃべれないの？兄弟いたの？病気なの？自閉症って何？障害って何？など、いろいろ質問され、妹がいっしょうけんめい友達に説明していました。

妹の友達や同じ学校の子に、兄は存在すら知られていない事や当時小学校1、2年だったのに、自閉症の説明をする妹を見て、皆と同じ地域や本当は同じ小学校に入るはずの子が住んでいる事、それが兄だという事、障害があっても、話せなくても、皆とコミュニケーションが取れなくても、皆と同じように優しい心や、嬉しさ楽しさ、つらさ、苦しさなどの感情や気持ちを持っていることを知ってほしかった。

支援籍に行くまで、子どもたちの反応はどうか、息子の反応はどうか、妹の反応はどうか、不安ばかりでした。特に、父親は大反対。妹がイジメにあうんじゃないかと心配していましたが、私はそうなっても息子がいて、娘がいて、この親子4人が家族。居ないことには、一生できないし、その事であつらい事が娘にあったとしても、受け止めてもらうしかないと思い、一歩を踏み出しました。

やらない後悔より、やる方が、同じ後悔をするなら、納得がいくと思いました。妹にも兄が支援籍に行く事をどう思うか聞いたところ、とても喜んでいて、兄が学校に来たら、兄の所へ遊びに行くと言って、当日の休み時間に兄に会いに来ました。

初めての支援籍、息子はパニックになってしまいましたが、子ども達も事前学習をしてくれたおかげか、叫ぶ息子に一生懸命何かを伝えようと、あの手、この手で自主的にかかわろうとしてくれました。その時は、何を不安に思っていたのだろう？子ども達はこんなに素直に受け入れて、かかわろうとしてくれていると感じ、涙が止まらなくなりました。その現場に居ないと、この思いは伝わりにくいと思いますが、心の底から感動、感激、やってよかったと思い、子ども達にも感謝しました。

その後、家に来て公園に行こうと誘ってくれる子どもや、息子が散歩していて、パニックになって、泣き叫んで道を歩いていると、一緒に「〇〇くん大丈夫？」となくさめ、声をかけながら、家まで歩いてくれたり、逆に出かける時に叫んでいても、途中まで、一緒に声をかけて歩いて見送ってくれる子が少ないながらも、出てきました。

声をかけてこなくても、私の顔を見ると、あいさつしてくれる子や、私に「〇〇くんは？」と声をかけてくれる子もいます。かつては、道で息子が叫んでいると、遠くから子ども達が不思議そうに視線を向けて、目で息子を追っていましたが、今は、知ってくれた子は気にもならない様子です。

地域の子ども全員が息子を知ってるわけではないので、視線を向けられる事はありますが、支援籍での子ども達の態度や手紙が励みになって、知ってくれば、そんな思いは減るんだ、知らないからだと言う事も分かり、どんどん地域の中へ参加するべきだと思いました。

支援籍での問題は、回数が少ないことかな？と思いますが、息子はたった2回の支援籍でしたが、内容の濃いものとなり、回数ではないんだと思いました。支援籍へ行くまで、お互いの前段階の取り組み方、支援籍の成功のカギとなると思います。子ども達は差別はしません。大人の方が差別や思い込みが強いと思います。

支援籍でいただいた手紙は、一生の宝物です。そして、子ども達はこんなに色々理解し、考えていると言う事も知り、地域で生きていく為のやる気、喜び、元気、色々なものをもらいました。不安で支援籍に行かない人がいたら、ぜひ行って見てほしい。必ず、成果は出ます。

息子は小学部の高学年で2回の支援籍でしたが、これから行こうと思っている気持ちがあるなら、ぜひ低学年から長い目でやってほしいです。2回で成果が出るのなら、長く行けば、もっと、もっと子ども達と仲良くなれるはずです。迷っているなら、ぜひ体験していただきたいです。



支援籍学習を行って

知的障害特別支援学校 保護者

特別支援学校小学部6年生男子の保護者です。息子が支援籍を始めたのは、小学部2年生の時でした。本当に何の前例もないまま始まったので、かなり不安はありましたが、最初は音楽の授業を一緒に受けさせていただきました。案の定、息子はほとんど席につき、教室をうろうろしながらも授業を進めて下さって、たまに席についたりすると、となりの子が教科書を見せてくれたりしました。とてもいい光景でした。

しかし、やはり息子には普通の授業は無理ということも分かりました。次からは、授業ではなく、給食や休憩時間を利用して、参加する事にしました。普通に給食を食べるだけでしたが用意する時など子供たちから「お盆持つんだよ」「ここにのせるんだよ」と声をかけてもらったりしました。すすんでかかわってくれる子、遠巻きに心配してくれる子、興味津々な子と様々でしたが、目の前に重度の障害者を見慣れてない子供たちでもあまり物怖じせず、普通に接してくれるので、とてもすごい事だなと思いました。

私は自分の学生時代を振り返って、こんな風に、障害者と接することが無かった事を思い出します。多少、勉強が遅れる子はいましたが、それは障害があるからだよという説明もされたことがなかったですし、障害者とは目が見えなかったり耳が聞こえなかったり、歩けなかったりする人の事なんだろうと漠然と思ったものです。

はっきり言えば、息子を生まなければ、いろんな障害者がいる事を理解しようなんて事は無かったのではないかと考えています。もし、学生の頃に、少しでも説明があったり、かわりがあったらとも思っていたので、今回の支援籍はとてもいい制度だと思いますし、始めようとしたきっかけでもあります。

4年間の中での数回ですが、きっと息子と会って、かかわってくれた子供たちは、かわらなかつた子供たちよりも障害者の認識を別の角度で見えてくれる力をつけてくれているのではないかと信じております。登下校の時、「あっ、〇〇君のお母さんだ」と声をかけてくれたり、遊びに来てくれたりした事もありました。難しいことはいらな思います。ただ、会って、見て、かかわってくれるだけでいいんだと思います。

話を聞くより、映像で観るより、目の前に本物があるという事実は衝撃的で記憶に残りますよね。いろんな影響があると思います。でも、悪い影響にはならないと思っております。

たくさんの子がこういう体験をたくさんしてほしいと思います。少しでいいのです。でも、何かのきっかけにはなるかもしれません。今の状況ですと、きめ細かい対応というのは難しいと思われますので、徐々に先生の数を増やして頂いたり、学校の説明をして頂いたり、多岐に渡り手を広げていただけると有難いと思っております。

この制度は、健常の子、障害のある子、双方にメリットがあります。続けて頂きたいと思います。

他の保護者の方からは、同伴で行かなければならない事、年に1、2回しかいけない事が参加しない理由に上がっておりますが、ぜひ、いろんな方の声を聞いて、いい方向に行ってほしいです。



支援籍学習を行って

知的障害特別支援学校 保護者

支援籍を行うにあたって、私はいくつかの事で悩みました。障がいをみんなに公表するのはどうだろうか、友達から差別の目で見られてしまうのではないか、入学前の体験時につばはきをよくしていたので、また行く事によってそれが始まってしまわないか等です。

けれど、既に支援籍をやっていたお母さん達から色々と話を聞いてみた所、プラスの声ばかりでした。例えば、近所であったら挨拶してくれたり、みんなに子どもの事を知ってもらえるいい機会になるという事でした。

我が家の近くには小学生があまりいない為、娘の存在を知る人はほとんどいないと思います。もし、迷子になってしまった時に顔と名前を知っててもらえたら、早く発見することができたり、変な子じゃなくてハンデがあるだけなんだとってくれるのではないかと考えるようになりました。いっぱい悩みましたが、やらないで後悔するより、やって後悔する事にしました。

小学校に行ってみたところ、みんな素直でいい子ばかりでした。やはり、小さいうちから色々な子がいる事を知っておくことは大切なのではないのでしょうか。娘の下には妹がいますが、生まれた時から一緒なので「お姉ちゃんはやべれない」という事が普通です。保育園のお友達にも自分からそう話している様です。世の中には、色々な人がいて、絵を描くのが得意な子もいれば不得意な子がいる。娘には不得意な事が少し多めにあるだけなんだとってもらえるようになって欲しいと考え、支援籍に参加しています。

学期に1回の割り合いでやっていますが、楽しい時間を過ごすには充分だと思います。
自分の学校や生活のリズムを大切にしながら、引き続きやっていきたいと思います。
これから、どこかで会うことがあったら、声をかけてもらえると嬉しいです。



